

平成23事業年度

# 財務レポート



国立大学法人 長崎大学

# 目次

国立大学法人会計のしくみ	… 1
決算の概要	… 3
財務諸表の関連図	… 4
貸借対照表の概要	… 5
損益計算書の概要	… 8
キャッシュ・フロー計算書の概要	… 14
利益の処分に関する書類の概要	… 15
国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要	… 16
決算報告書の概要	… 17
主な財務指標	… 19

## 財務レポートの作成にあたって

国立大学法人会計の意義は、国立大学法人等の財政状態及び運営状況を適切に反映した財務諸表を作成・開示することにより、国民や社会への説明責任を果たし、同時に業務実績の適正な評価に資する情報を提供することとされており、財務諸表等は官報及び本学のホームページで公表しているところです。

HPアドレス( <http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/legal/open/index.html> )

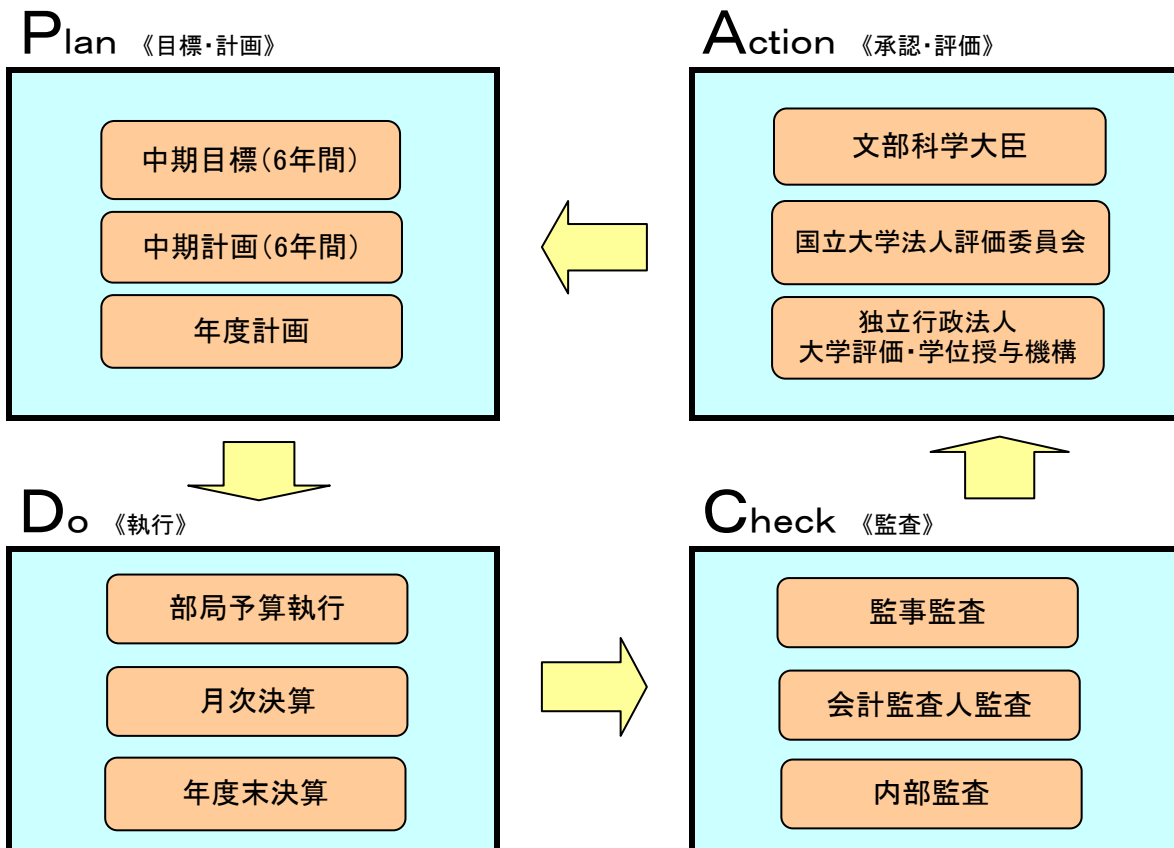
国立大学法人は「国立大学法人会計基準」に基づき会計処理を行っています。  
本基準は企業会計に準拠しているとはいえ、多少異なる特徴的な会計処理を行っていることから、公表されている財務諸表だけでは、財政状態及び運営状況を理解し難い面があります。

そこで、この財務レポートにて、公表している財務諸表をなるべくわかりやすく解説し、ご理解いただくことを目的として作成いたしました。

国立大学法人長崎大学 財務部

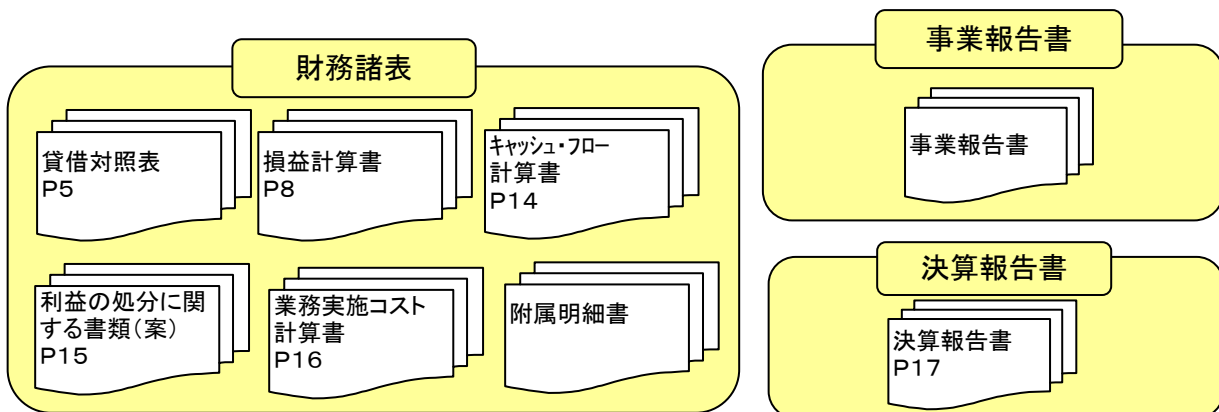
## 国立大学法人会計のしくみ ①

- ・国立大学法人は、大学の基本理念や特性を踏まえた6年間の中期目標を達成するため、具体的に計画した中期計画及び年度計画に基づいて大学運営を行っています。
- ・国立大学法人は、国立大学法人会計基準を基に各会計処理を行っており、複式簿記を採用しています。その結果として財政状態や運営状況を明らかにした財務諸表を年度末に作成しています。
- ・作成された財務諸表は、事業報告書及び決算報告書を添え、監事並びに会計監査人の監査を受けた後、6月末日までに文部科学大臣へ提出します。
- ・文部科学大臣は、提出された財務諸表等の承認を行います。また、中期目標に掲げた目標を達成するための中期計画及び年度計画が遂行されているかを総合的に評価します。



### 【年度末決算時に必要な提出書類】

毎事業年度終了後、文部科学大臣へ提出する書類は下記のとおりです。



国立大学法人会計は、企業会計とは多少異なる会計処理を行っており、通常の運営を行った場合、損益が均衡する仕組みとなっております。以下で主な特徴を説明します。

### 1. 受け入れたものは、一度負債として計上される！

受け入れを行った運営費交付金、学生納付金、補助金、寄附金、受託研究費等は、すぐに損益計算書上の「収益」とはなりません。

本学が、国や学生、寄付者の皆様に対して、サービスの提供等、行わなければならない「義務」を負ったということから、貸借対照表上の「負債（流動負債）」として計上します。

（流動負債例：運営費交付金債務、授業料債務、寄附金債務 等）

貸借対照表

資産 《固定資産》	負債 《固定負債》
	《流動負債》
《流動資産》	授業料債務
現金及預金	100
100	純資産

《仕訳例》 現金及預金100 / 授業料債務100

### 2. 資産を取得したら、流動負債から固定負債へ振り替える！

資産を購入した時には、受け入れ時に流動負債として計上した〇〇債務を、固定負債である資産見返〇〇へ振り替えます。

（固定負債例：資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金 等）

貸借対照表

資産 《固定資産》 工具器具備品 0 → 60	負債 《固定負債》 資産見返運営費交付金等 0 → 60
《流動資産》	《流動負債》
現金及預金	授業料債務
100 → 40	100 → 40
	純資産

《仕訳例》 工具器具備品60 / 現金及預金60  
授業料債務60 / 資産見返運営費交付金等60

### 3. 資産の減価償却や費用の発生に併せて負債の収益化を行う！

#### 固定負債の収益化！

資産取得時において、固定負債に振り替えたもの（資産見返〇〇負債）は、資産価値を減少させる減価償却費と同額を収益勘定（資産見返負債戻入）へ振り替えます。

《仕訳例》 研）減価償却費10 / 減価償却累計額10  
資産見返運営費交付金等10 / 資産見返運営費交付金等戻入10

#### 流動負債の収益化！

流動負債については、費用が発生した相当額を流動負債から収益勘定へ振り替えます。

（収益勘定例：運営費交付金収益、授業料収益、寄附金収益 等）

《仕訳例》 教）消耗品費40 / 現金及預金40  
授業料債務40 / 授業料収益40

貸借対照表

資産 《固定資産》 工具・器具備品 60 減価償却累計額 0 → ▲10	負債 《固定負債》 資産見返運営費交付金等 60 → 50
《流動資産》	《流動負債》
現金及預金	授業料債務
40 → 0	40 → 0
	純資産

損益計算書

費用 《経常費用》 教育経費 （消耗品費） 0 → 40 研究経費 （減価償却費） 0 → 10	収益 《経常収益》 授業料収益 0 → 40 資産見返運営費交付金戻入 0 → 10
---	---

# 決算の概要

貸借対照表 P5

(単位:億円)

財政状態	資産	負債
	1,265	556
		純資産
		709

貸借対照表って何？

貸借対照表とは、決算日(3/31)における、**財政状態**を明らかにするものです。

何がわかるの？

本学が、**今年度の3/31現在**で資産をどれだけ保有し、負債をどれだけ抱え、その結果、**純資産**がどのようになっているのかわかります。

損益計算書 P8

活動状況	費用	収益
	489	491
	当期総利益	
	2	

損益計算書って何？

損益計算書とは、一会計期間における本学の**運営状況**を示したものです。

何がわかるの？

**金額面から見た今年1年間の活動内容**がわかります。

《例》

- ・費用では教育経費でいくら使用したのか？
- ・収益では授業料収益をいくらあげることが出来たのか？
- ・最終的には損益均衡を原則としつつも自助努力によりあげた利益額がわかります。

キャッシュ・フロー計算書 P14

資金の流れ	業務活動	66
	投資活動	▲ 136
	財務活動	3
	資金増加・減少額	▲ 67
	資金期首残高	111
	資金期末残高	44

キャッシュ・フロー計算書って何？

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間におけるキャッシュ(お金)のフロー(流れ)を一定の活動区分別に表したものです。

何がわかるの？

固定資産取得や借入・返済等の現金の受払が表示されているので、**貸借対照表や損益計算書からは読み取ることができない資金の流れの状況**がわかります。

国立大学法人等業務実施コスト計算書 P16

国民負担	業務に要したコスト	控除額
	514	▲ 308
	業務実施コスト	206

業務実施コスト計算書って何？

業務実施コスト計算書とは、本学の業務運営を行うにあたり、**納税者である国民の皆様からどれだけ負担**をしていただいたのかわかります。

決算報告書 P17

	予算額	決算額	差額	
収入・支出の状況	収入	549	565	15
	支出	549	543	▲ 6
	差額	0	21	21

決算報告書って何？

決算報告書とは、1年間の収入及び支出の状況を国の会計ルールに準じた予算区分に応じて作成したものです。  
年度計画時に立てた収入と支出の見込額(予算額)がどのような結果(決算額)であったかを示したものです。

何がわかるの？

**計画(予算)に対する結果(決算)**や、予算区分に応じた**執行状況**がわかります。

# 財務諸表の関連図

(単位:百万円)

貸借対照表

資 産	負 債
126,563	55,641
	純資産
	70,921
現金及び預金 (定期預金除) 4,403 (内数)	当期未処分利益 231 (内数)

キャッシュ・フロー計算書

資金期首残高	11,113
業務活動	6,665
投資活動	▲ 13,688
財務活動	312
資金期末残高	4,403

損益計算書

経常費用+臨時損失	48,910	経常収益+臨時利益	49,122
【当期総利益】	231	国から措置された 収益以外の収益 (自己収入) 30,824 (内数)	前中期目標期間繰越積立金取崩額
			18

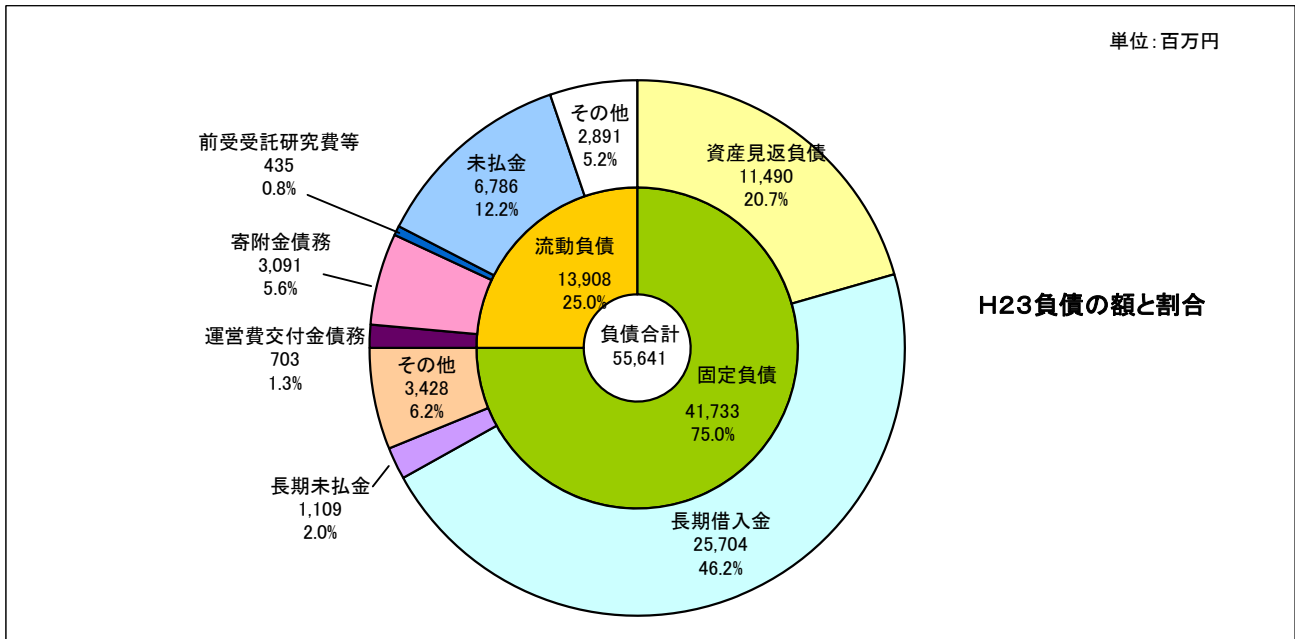
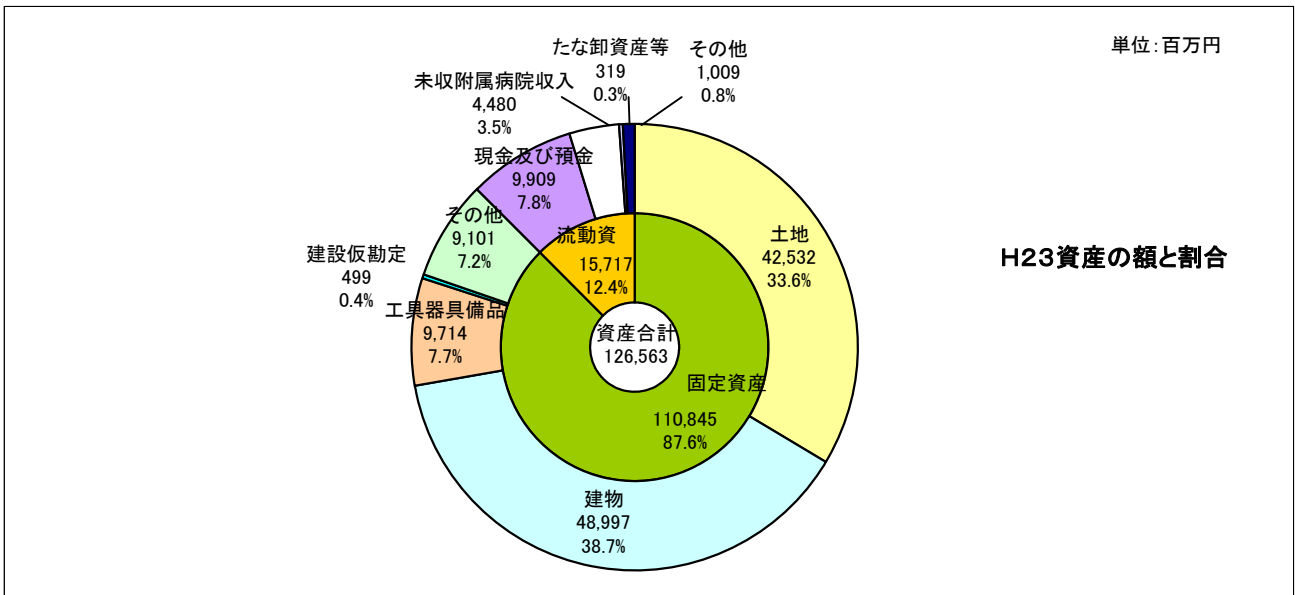
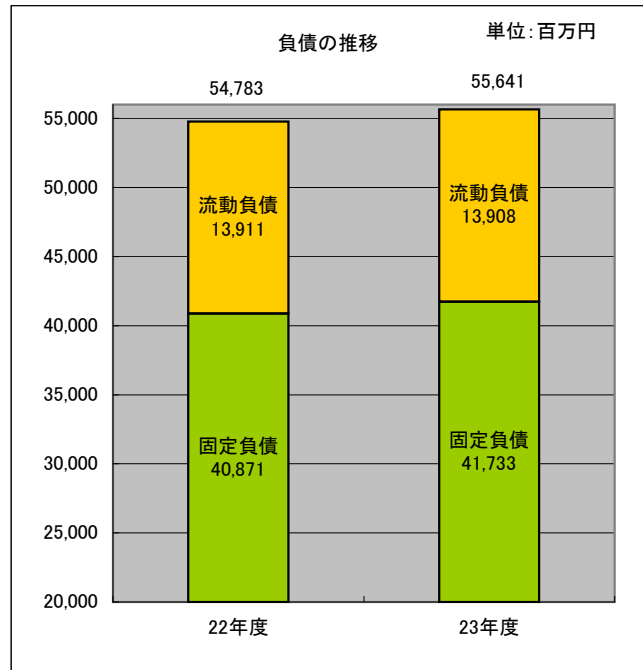
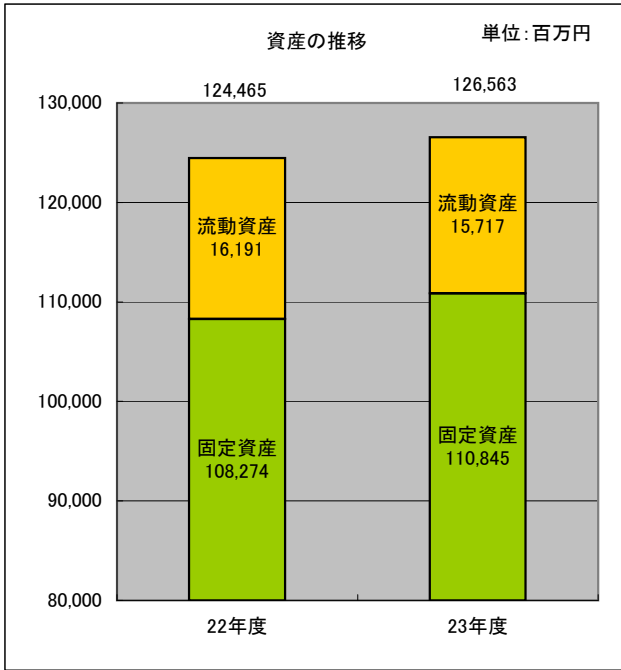
業務実施コスト計算書

損益計算書の費用	48,910	国から措置された 収益以外の収益 (自己収入)	30,824
損益外減価償却・機会費用等	2,526	業務実施コスト	20,612

利益処分に関する書類(案)

利益処分類	231
・積立金	0
・目的積立金	231







## 貸借対照表の主な増減要因

・前年度と比較した主な増減要因は以下のとおりです。

<b>資産の部</b>	<b>126,563 百万円</b>	2,098 百万円 増加
-------------	--------------------	--------------

土地	42,532 百万円	0 百万円
建物	48,997 百万円	3,990 百万円 増加
工具器具備品	9,714 百万円	▲ 167 百万円 減少

◎土地・建物・工具器具備品とは、本学が行わなければならない教育・研究・診療等の事業に必要な基盤となる資産のことです。

・建物については、病院再開発事業(病院本館Ⅱ工区改修 外)、バイオメディカル・リサーチセンター増改築、業務達成基準を適用した学内プロジェクト(サイエンス&テクノラボ棟新営)及び教育学部音楽練習棟改修などの事業を行ったことによる増加があった一方で、左記事業に伴う除却処理及び減価償却の増加などの減少もありましたが、最終的には増加しました。

・工具器具備品については、新規資産取得による増加がありましたが、除却処理及び減価償却の増加により最終的には減少しました。

<b>建設仮勘定</b>	<b>499 百万円</b>	▲ 1,822 百万円 減少
--------------	----------------	----------------

◎建設仮勘定とは、建物等の建設を行う場合において建物等が完成するまでに要した支出額を計上する勘定のことです。建物等が完成した際には、この建設仮勘定から適切な勘定(建物等)に振り替えなければなりません。

・平成23年度は、病院再開発事業(基幹・環境整備 外)、附属図書館改修及び業務達成基準を適用した学内プロジェクト(学生支援・教育施設新営)により増加しましたが、病院再開発事業(病院本館Ⅱ工区 外)、バイオメディカル・リサーチセンター、サイエンス&テクノラボ棟新営等の竣工に伴い建物等への振替処理を行ったことで大幅に減少しました。

<b>現金及び預金</b>	<b>9,909 百万円</b>	▲ 1,210 百万円 減少
---------------	------------------	----------------

◎貸借対照表に計上される現金及び預金(3/31現在)は、翌期に支払いに充てる予定の未払金と寄附金等の外部資金の繰越額がそのほとんどを占めています。

・平成23年度は、国債や地方債といった有価証券を取得したことにより減少しました。

<b>たな卸資産等</b>	<b>319 百万円</b>	▲ 16 百万円 減少
---------------	----------------	-------------

◎たな卸資産等とは、重油等の燃料や切手等の金銭等価物及び医薬品・診療材料等のことで、期末時の残数量に基づいた額を計上しています。従ってたな卸資産等は、受け払い簿を用いて記録し管理する必要があります。

<b>負債の部</b>	<b>55,641 百万円</b>	858 百万円 増加
-------------	-------------------	------------

<b>資産見返負債(「資産見返運営費交付金等」など)</b>	<b>11,490 百万円</b>	244 百万円 増加
--------------------------------	-------------------	------------

◎資産見返負債とは、運営費交付金、授業料、補助金及び寄附金等により固定資産を取得した際に、運営費交付金債務等の財源ごとに計上されている流動負債(〇〇債務)が取り崩されて計上される固定負債のことです。なお、この負債は減価償却が行われる際、減価償却費(費用)と同額が取り崩され資産見返負債戻入(収益)へと計上されます。この処理を行うことで損益が均衡する仕組みとなっており、国立大学法人会計特有の勘定です。

<b>長期借入金</b>	<b>25,704 百万円</b>	1,989 百万円 増加
--------------	-------------------	--------------

◎借入金とは、法人化以降、病院の再開発事業を行うにあたり、国立大学財務・経営センターから借り入れたものです。3/31現在の債務残高(元本)が長期借入金として計上されていますが、翌期に返済を行う額は流動負債(「一年以内返済予定長期借入金」※P5では「その他」に計上)へ計上されています。

・平成23年度は翌期の返済予定額を流動負債に振り替えたことにより減少する一方で、病院再開発事業に係る病院本館Ⅱ工区等の借入を行ったことにより最終的には増加しました。

## 損益計算書の概要

損益計算書って何？

損益計算書とは、一会計期間における本学の運営状況を示したものです。

何がわかるの？

金額面から見た今年1年間の活動内容がわかります。

費用では教育経費でいくら使用したのか、収益では授業料収益をいくらあげることが出来たのか等です。最終的には損益均衡を原則としつつも、自助努力によりあげた利益額がわかります。

### 損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	費用			収益			
	平成22年度	平成23年度	増減額	平成22年度	平成23年度	増減額	
〈経常費用〉	46,614	48,345	1,731	〈経常収益〉	47,302	49,115	1,813
業務費	44,617	46,375	1,758	運営費交付金収益	15,321	15,614	293
教育経費	1,779	1,889	110	学生納付金収益	4,586	4,960	374
研究経費	3,252	3,621	369	附属病院収益	21,886	22,538	652
診療経費	13,548	14,218	670	受託研究等収益等	1,468	1,481	13
教育研究支援経費	438	434	▲ 4	寄附金収益	643	860	217
受託研究費等	1,303	1,466	163	施設費収益	194	301	107
役員人件費	121	113	▲ 8	補助金等収益	1,289	1,273	▲ 16
教員人件費	13,135	13,230	95	資産見返負債戻入	1,186	1,336	150
職員人件費	11,038	11,402	364	財務収益	2	6	4
一般管理費	1,372	1,361	▲ 11	雑益	724	740	16
財務費用	622	607	▲ 15	〈臨時利益〉	32	7	▲ 25
雑損	1	0	▲ 1	〈目的積立金取崩額〉	0	0	0
〈臨時損失〉	598	565	▲ 33	〈前中期目標期間繰越積立金取崩額〉	8	18	10
経常・臨時計	47,212	48,910	1,698	経常・臨時等計	47,343	49,141	1,798
<b>総利益</b>							
当期総利益	131	231	100				
<b>費用・総利益合計</b>				<b>収益合計</b>			
	<b>47,343</b>	<b>49,141</b>	<b>1,798</b>		<b>47,343</b>	<b>49,141</b>	<b>1,798</b>

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

#### 【費用】

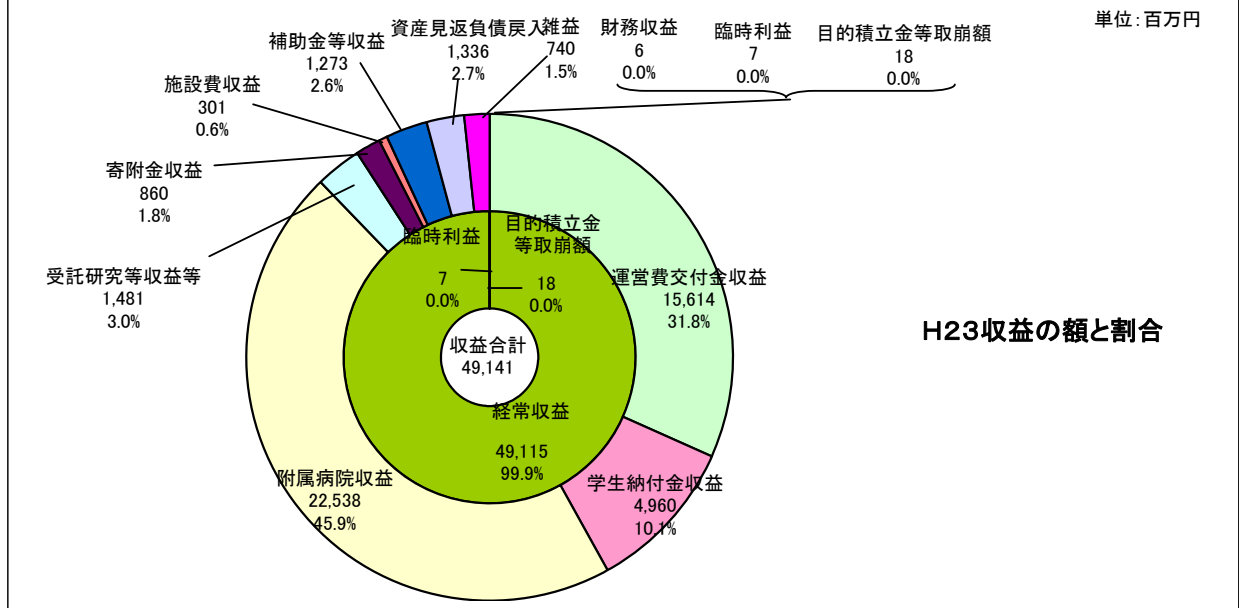
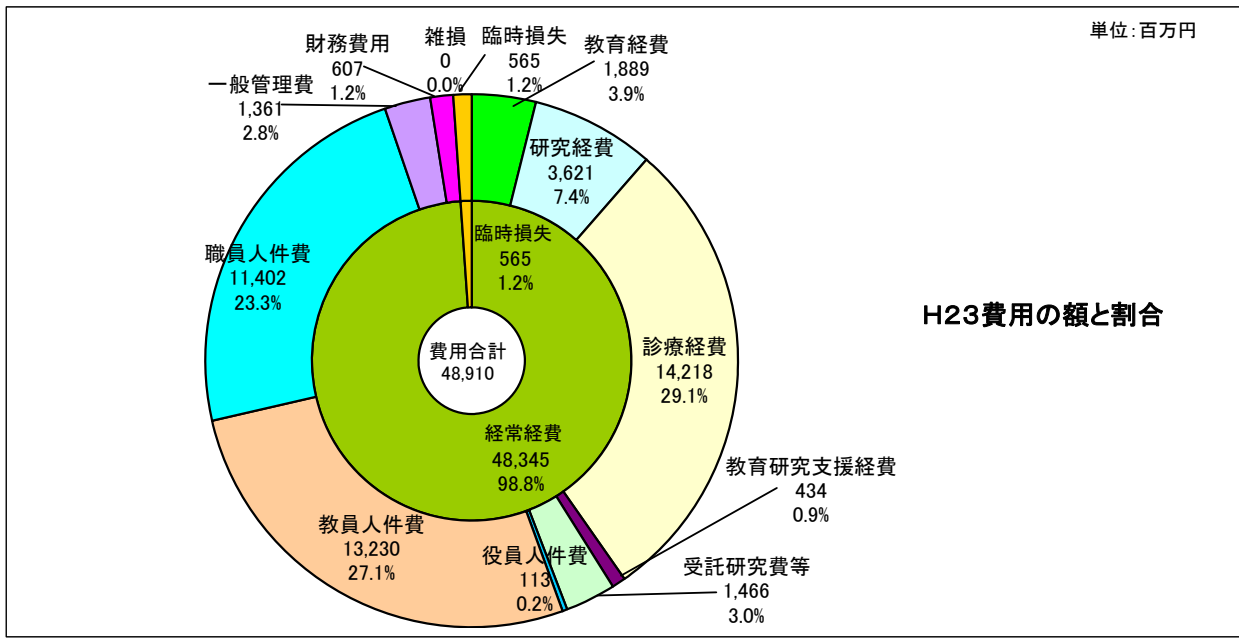
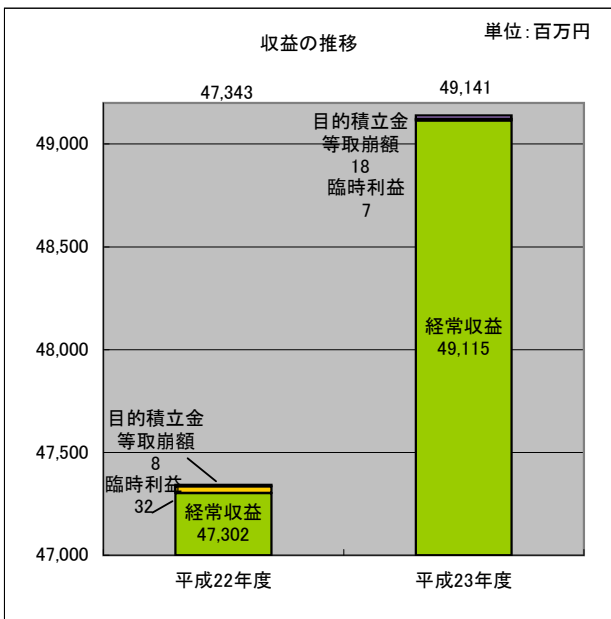
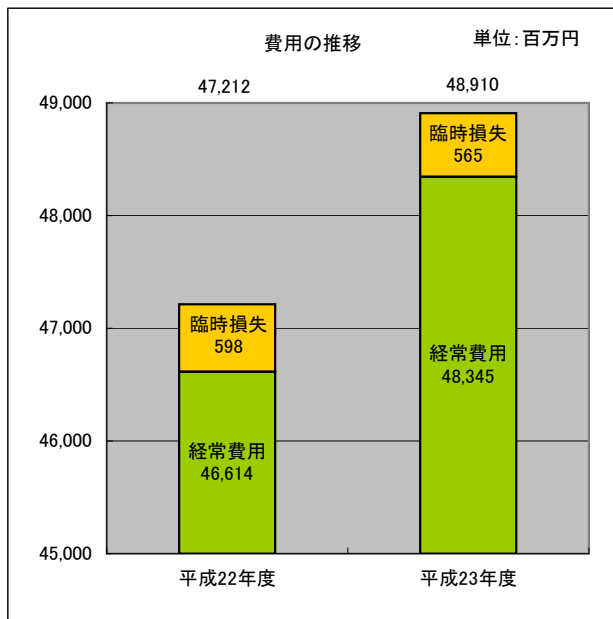
附属病院収益の増収を目指し、医療スタッフの充実を図ったことに伴う「人件費」の増加や、手術件数が増えたこと等に伴う「診療経費」の増加等により総額で約483億円となり、対前年度比約17億円増加しました。

#### 【収益】

病院の経営努力の結果「附属病院収益」が増加したことで、総額で約491億円となり、対前年度比約18億円増加しました。

#### 【当期総利益】

収益と費用の差額、2億3千1百万円が平成23年度の当期総利益となりました。



## 損益計算書の主な増減要因

・前年度と比較した主な増減要因は以下のとおりです。

<b>費用</b>	<b>48,910 百万円</b>	1,698 百万円 増加
-----------	-------------------	--------------

<b>〈経常費用〉</b>	<b>48,345 百万円</b>	1,731 百万円 増加
---------------	-------------------	--------------

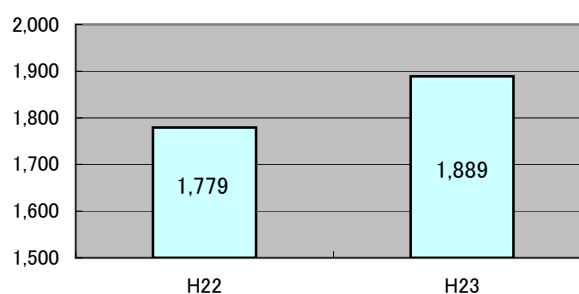
<b>教育経費</b>	<b>1,889 百万円</b>	110 百万円 増加
-------------	------------------	------------

◎教育経費とは、学生等に対し行われる教育に要する経費のことです。

具体的には、入学試験、正課教育、就職準備活動、入・卒業式などがあげられます。

・教育経費において、免除率のアップ及び新たな奨学金制度の確立により奨学費が増加し、また、本学が保有する船舶の定期検査が行われたこと等による修繕費の増加もあり大幅に増加しました。

教育経費の推移



### 研究経費

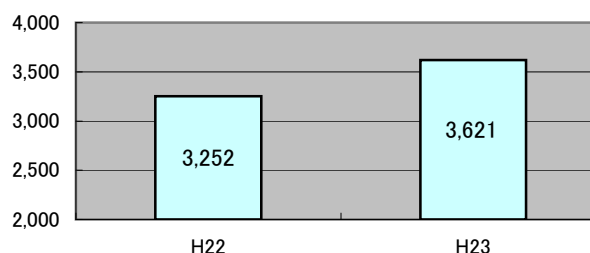
3,621 百万円

369 百万円 増加

◎研究経費とは、研究に要する経費のことです。

・研究経費においては、バイオメディカル・リサーチセンター等の竣工に伴う撤去費及び修繕費の増加、また研究用資産の減価償却費が増加したこと等により大幅に増加しました。

研究経費の推移



### 診療経費

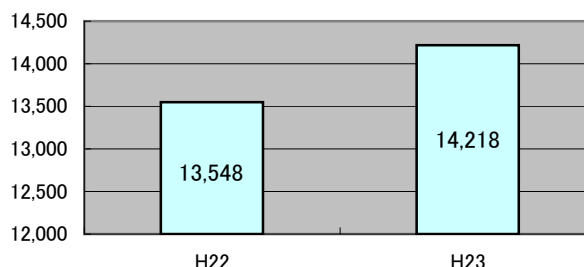
14,218 百万円

670 百万円 増加

◎診療経費とは、診療報酬の獲得が予定される行為に要する経費のことです。

・附属病院については、増収方策により収益が伸びましたが、収益獲得と連動した材料費や委託費等の増加及び病院再開発事業に伴う資産取得による減価償却費の増加等により最終的には大幅に増加しました。

診療経費の推移

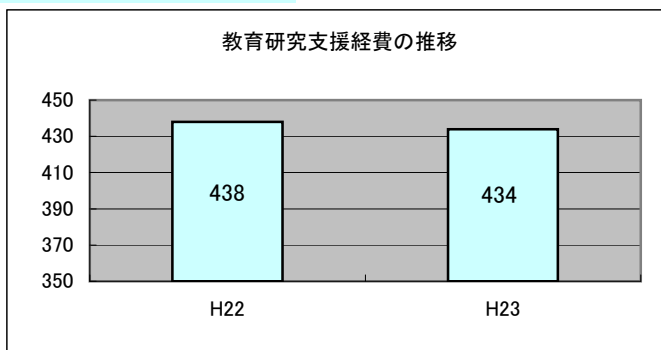


教育研究支援経費

434 百万円

▲ 4 百万円 減少

◎教育研究支援経費とは、大学全体の教育及び研究の双方を支援するために設置された施設において、学生や教員が利用するものの運営に要する経費のことです。  
本学では、附属図書館及び情報メディア基盤センターの運営に要する経費を計上しています。

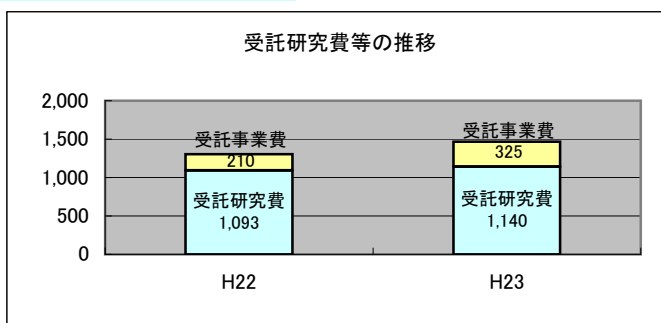


受託研究費等

1,466 百万円

163 百万円 増加

◎受託研究費等とは、受託研究、共同研究及び受託事業の実施に要する経費のことです。  
なお、この財源にて支給される給与等も含まれます。



役員人件費

113 百万円

▲ 8 百万円 減少

教員人件費

13,230 百万円

95 百万円 増加

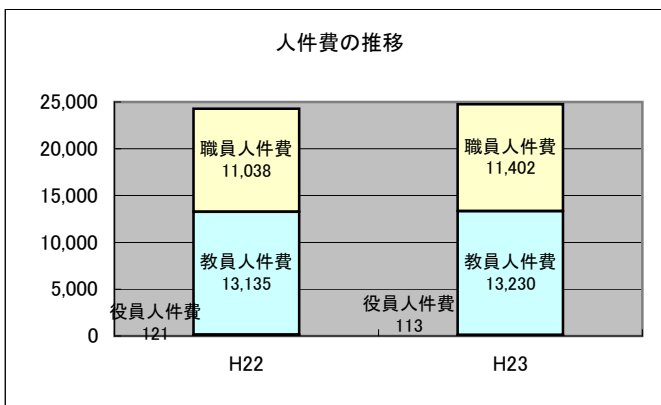
職員人件費

11,402 百万円

364 百万円 増加

◎人件費とは、役員、教員及び職員に対し支払われる報酬、給与、賞与、退職手当等のことです。  
なお、受託研究費等を財源として支払われる給与等は含みません。

・総人件費改革に伴う人件費削減について取り組みつつ、退職給付費用の増加や、附属病院の増収方策の一環で医療スタッフの充実を図ったこと等により最終的には教員人件費及び職員人件費が増加しました。



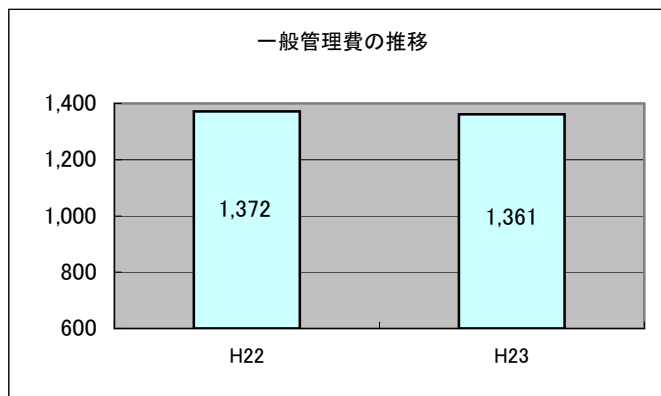
一般管理費

1,361 百万円

▲ 11 百万円 減少

◎一般管理費とは、大学全体の管理運営を行うために要する経費のことであり、他の区分に属さない経費は全て計上されます。

・平成23年度は、減価償却費の増加があったものの、業務改善見直し等による経費節減努力により最終的には減少しました。

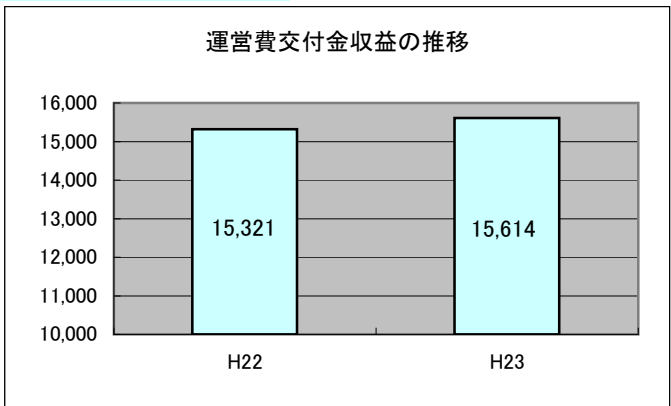


**収益** **49,141 百万円** **1,798 百万円 増加**

**〈経常収益〉** **49,115 百万円** **1,813 百万円 増加**

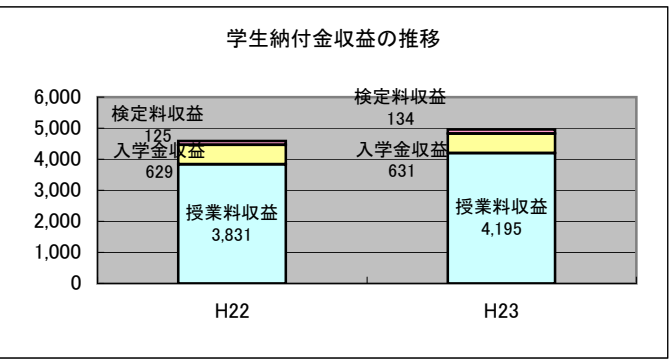
**運営費交付金収益** **15,614 百万円** **293 百万円 増加**

◎運営費交付金収益とは、国から措置された運営費交付金について行うべき事業を行ったことにより収益として計上したものです。  
 なお、運営費交付金収益は、国の予算措置額及び資産取得の状況が大きく影響します。



**学生納付金収益** **4,960 百万円** **374 百万円 増加**

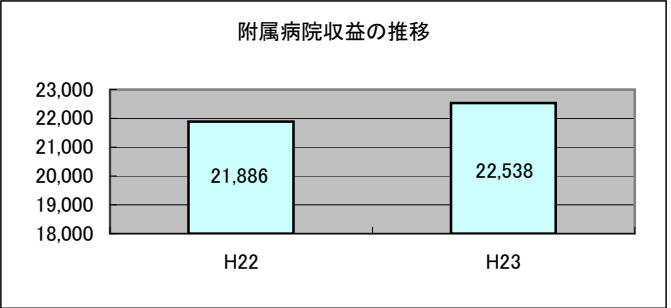
◎学生納付金収益とは、学生からの授業料、入学料及び検定料について、行うべき事業をおこなったことにより収益として計上したものです。  
 なお、学生納付金収益は、学生からの納付状況及び資産取得の状況が大きく影響します。



**附属病院収益** **22,538 百万円** **652 百万円 増加**

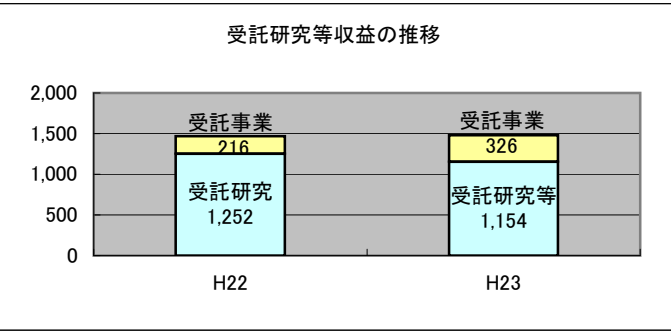
◎附属病院収益とは、病院において診療行為を行ったことにより獲得した収益のことです。

・附属病院収益の増収方策の取り組みによる手術件数の増加や在院日数を短縮したことにより増加しました。



**受託研究等収益等** **1,481 百万円** **13 百万円 増加**

◎受託研究等収益等とは、受託研究、共同研究及び受託事業により得られた収益のことです。  
 なお、受託研究等収益等は、受入状況が大きく影響します。



寄附金収益	860 百万円	217 百万円 増加
◎寄附金収益とは、寄附金を財源として執行したもののうち、費用として計上したものと同額が計上されます。		
施設費収益	301 百万円	107 百万円 増加
◎施設費収益とは、国から措置された施設整備費補助金及び国立大学財務・経営センターからの交付金により学内の各施設を整備した事業のうち、費用として計上したものと同額が計上されます。		
補助金収益	1,273 百万円	▲ 16 百万円 減少
◎補助金収益とは、国や地方公共団体等から措置された補助金で行った事業のうち、費用として計上したものと同額が計上されます。 なお、補助金収益は、受入額及び資産取得の状況が大きく影響します。		
資産見返負債戻入	1,336 百万円	150 百万円 増加
◎資産見返負債戻入とは、当期または前期以前において、運営費交付金、授業料、補助金及び寄附金等により固定資産を取得したもののうち、当期に計上される減価償却費(費用)と同額が資産見返〇〇金(例:資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金 等)から振り替えられて計上されたものです。 なお、この処理を行うことで損益が均衡する仕組みとなっており、国立大学法人会計特有の勘定です。		
<臨時損失>	565 百万円	▲ 33 百万円 減少
<臨時利益>	7 百万円	▲ 25 百万円 減少
◎臨時損失及び臨時利益とは、大学本来の業務活動とは別に発生した損失及び利益のことです。 主に固定資産の売却や除却を行うことで発生します。		

## キャッシュ・フロー計算書の概要

キャッシュ・フロー計算書って何？

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間におけるキャッシュ(お金)のフロー(流れ)を一定の活動区分別に表したものです。

何がわかるの？

固定資産取得や借入・返済等の現金の受払が表示されているので、**貸借対照表や損益計算書からは読み取ることができない資金の流れの状況**がわかります。

### キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>6,665</b>
・運営費交付金収入	16,384	・原材料、商品又はサービスの購入による支出
・学生納付金収入	5,050	▲ 16,253
・附属病院収入	22,334	・人件費支出
・その他の収入	5,383	▲ 24,995
・預り科研費の純増加額	30	・その他の支出
		▲ 1,267
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>▲ 13,688</b>
・施設費による収入	2,427	・有価証券の取得による支出
・定期預金の払い戻しによる収入	5,000	▲ 1,006
・利息及び配当金の受取額	7	・固定資産取得による支出
		▲ 9,616
		・定期預金預け入れによる支出
		▲ 10,500
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>312</b>
・長期借入れによる収入	3,225	・国立大学法人財務・経営センター債務負担金の返済による支出
		▲ 632
		・リース債務の返済による支出
		▲ 857
		・長期借入金の返済による支出
		▲ 822
		・利息の支払額
		▲ 601
<b>IV 資金増加額(又は減少額)(I + II + III)</b>		<b>▲ 6,710</b>
<b>V 資金期首残高</b>		<b>11,113</b>
<b>VI 資金期末残高(IV + V)</b>		<b>4,403</b>

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

- ・業務活動によるキャッシュ・フロー・・・通常業務の実施により生じた資金の出入りのことです。
- ・投資活動によるキャッシュ・フロー・・・将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資に伴う資金の出入りのことです。
- ・財務活動によるキャッシュ・フロー・・・業務に必要な資金の調達及び返済に係る資金の出入りのことです。
- ・資金期末残高は、貸借対照表中の「現金及び預金」のうち定期預金を除いた額に一致します。



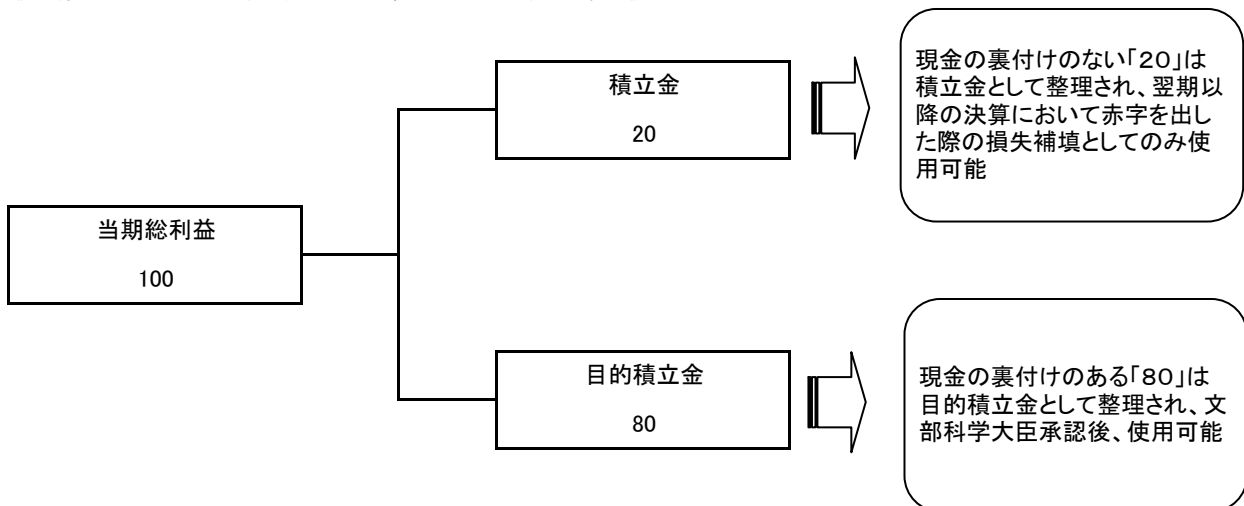
## 利益の処分に関する書類の概要

### 利益の処分に関する書類(要約)

(単位:円)

区分	金額
I 当期未処分利益	
当期総利益	231,059,891
II 利益処分量	
積立金	0
目的積立金	231,059,891

《当期総利益が100 そのうち現金の裏付けが80あった場合》



 **ココがポイント！！**

当期総利益が全て、目的積立金になるわけではありません。  
 当期総利益のうち、現金の裏付けがあり、翌期以降の事業に使用する予定があるものだけが目的積立金となります。  
 例えば、病院の運営状況によっては、現金の残額が当期総利益を上回ることがあり、その場合、当期総利益が目的積立金の上限額となります。

## 国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要

### 業務実施コスト計算書って何？

業務実施コスト計算書とは、本学の業務運営を行うにあたり、**納税者である国民の皆様からどれだけ負担**をしていただいたのかわかります。

### 国立大学法人等業務実施コスト計算書(要約)

(単位:百万円)

業務に要したコスト		控除額	
・業務費用(損益計算計上額)		・自己収入等	
業務費	46,375	学生納付金収益	4,960
一般管理費	1,361	附属病院収益	22,538
財務費用	607	受託研究等収益	1,481
雑損	0	寄附金等収益	860
臨時損失	565	資産見返戻入(授業料・寄附金)	558
・損益外減価償却相当額等	1,991	財務収益	6
・引当外賞与増加見積額等	▲ 168	雑益	410
・機会費用	703	臨時利益	7
業務コスト 計	51,436	控除額 計	30,824
業務実施コスト(業務に要したコストー控除額)			20,612

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

この国民の皆様にご負担していただいたコストですが、H23.3.1現在の日本の総人口から算出すると・・・国民一人当たり約161円を负担していただいたこととなります。

- ...
・損益外減価償却相当額等
国から出資された資産の減価償却費等は、病院に帰属する資産を除き損益計算書には計上されません。(純資産にて計上)しかし、最終的には国民の負担となっているものと判断し、今年度の費用相当額としてコストに計上したものです。
- ...
・引当外賞与増加見積額等
運営費交付金を財源として支給される賞与及び退職給付費用については、引当処理を行わないため損益計算書には計上されません。しかし、最終的には国民の負担となっているものと判断し、前年度末と今年度末との差額を今年度要した費用相当額としてコストに計上したものです。
- ...
・機会費用
機会費用とは、国の機関や地方公共団体等と本学相互間において無償使用等を行ったものについて、実際に必要であったと思われる相当額をコストに計上したものです。

## 決算報告書の概要

### 決算報告書って何？

決算報告書とは、1年間の収入及び支出の状況を国の会計ルールに準じた予算区分に応じて作成したものです。

### 何がわかるの？

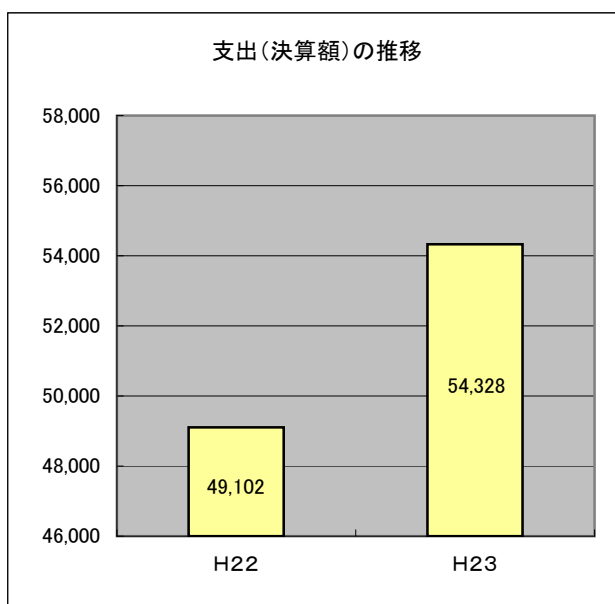
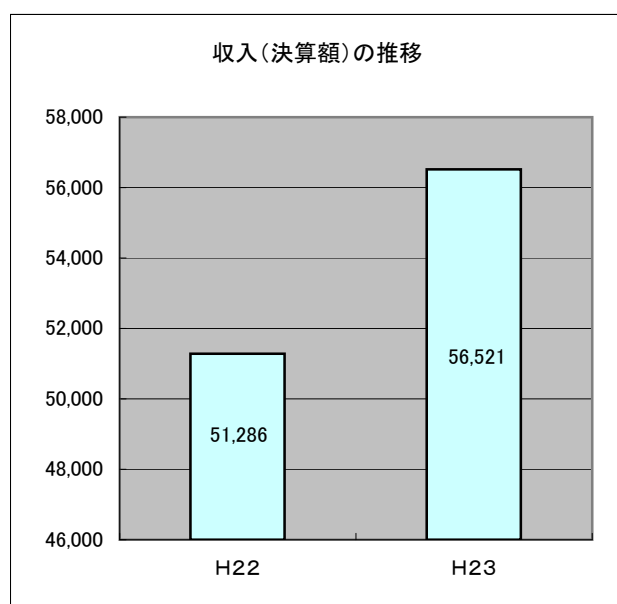
年度計画時に立てた収入と支出の**見込額(予算額)**がどのような**結果(決算額)**であったのかわかります。  
また、各**予算区分**に応じた**収入及び支出の執行結果**を見ることが出来ます。

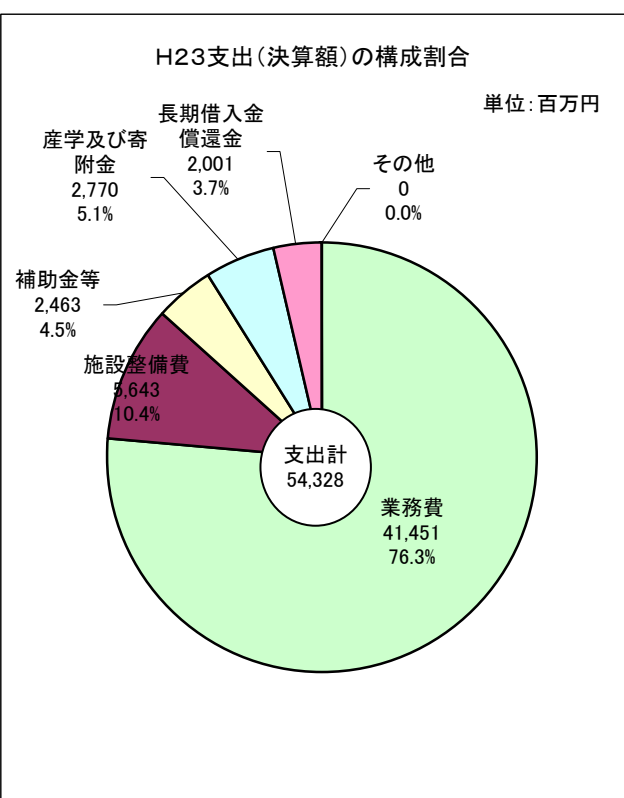
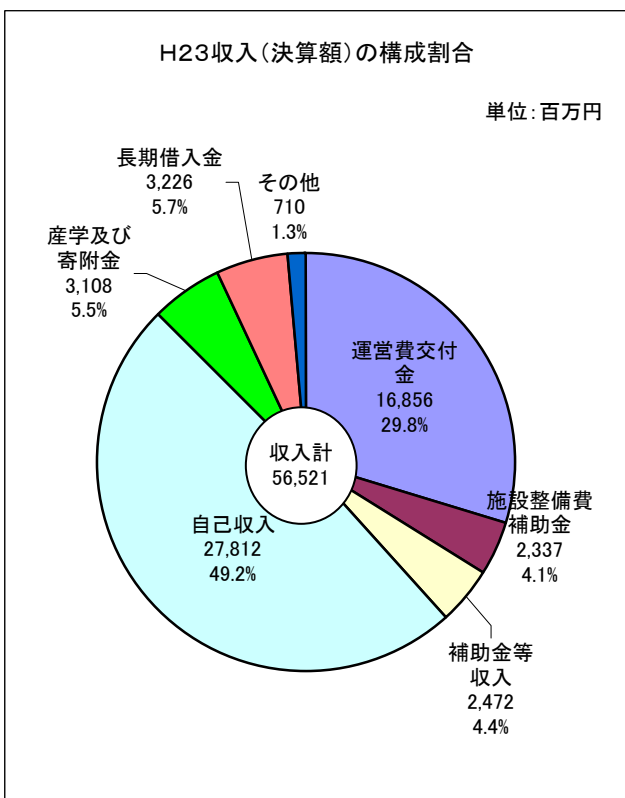
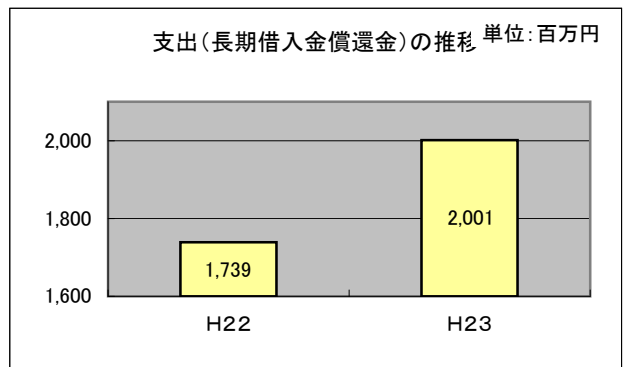
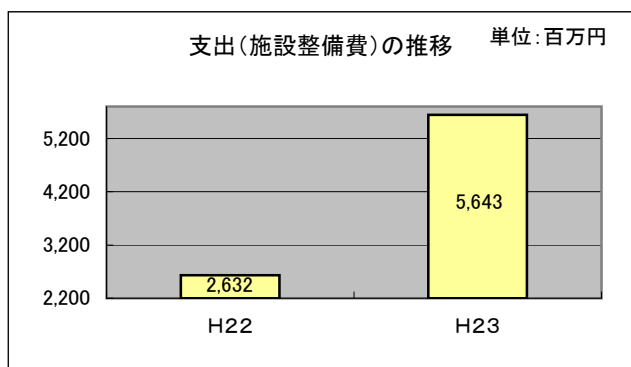
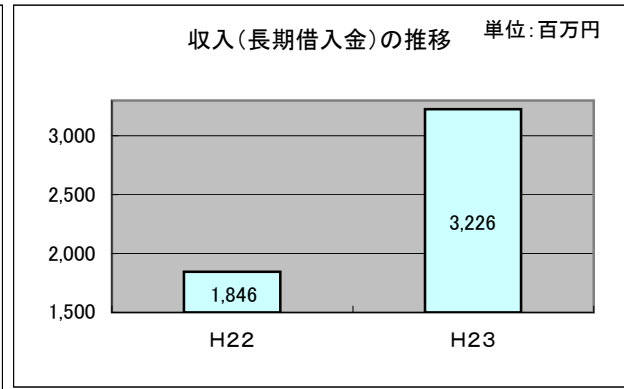
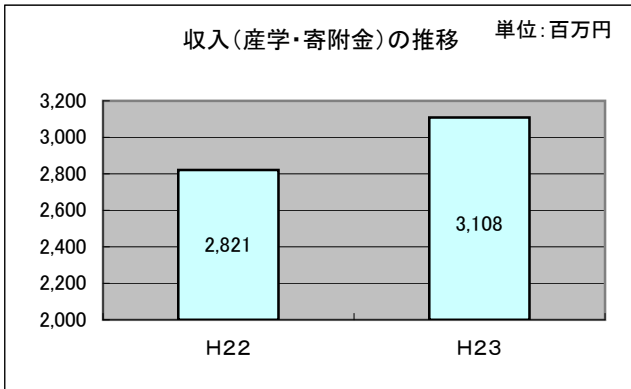
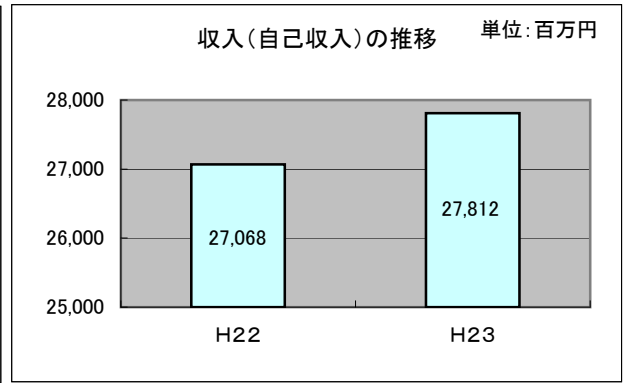
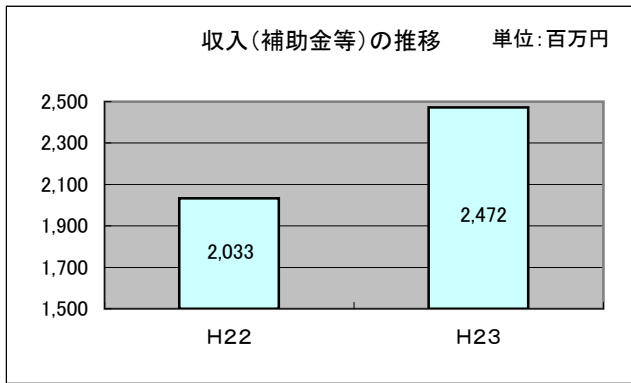
## 決算報告書(要約)

(単位:百万円)

収入	予算額	決算額	差額
運営費交付金	17,039	16,856	▲ 183
施設整備費補助金	2,327	2,337	10
補助金等収入	2,181	2,472	291
国立大学財務・経営センター施設費交付金	63	80	17
自己収入	27,344	27,812	468
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,221	3,108	887
引当金取崩	0	433	433
長期借入金収入	3,302	3,226	▲ 76
前中期目標期間繰越積立金取崩	467	197	▲ 270
<b>計</b>	<b>54,944</b>	<b>56,521</b>	<b>1,577</b>
支出	予算額	決算額	差額
業務費	42,845	41,451	▲ 1,394
施設整備費	5,692	5,643	▲ 49
補助金等	2,181	2,463	282
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,221	2,770	549
長期借入金償還金	2,005	2,001	▲ 4
国立大学法人財務・経営センター施設費納付金	0	0	0
<b>計</b>	<b>54,944</b>	<b>54,328</b>	<b>▲ 616</b>
収入－支出	0	2,193	2,193

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。





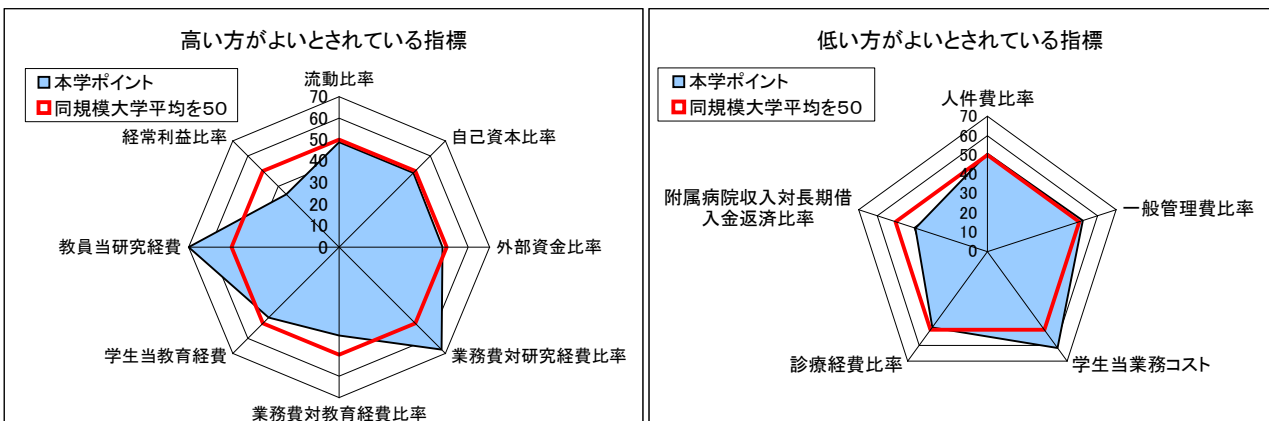
## 主な財務指標

No.	項目	算式	22年度	23年度	23年度 同規模大学 平均	指標の意味
<b>【 高い方がよいとされている指標 】</b>						
1	流動比率	流動資産/流動負債	116.4%	113.0%	115.8%	短期的な支払能力を示す指標。
2	自己資本比率	純資産/(負債+純資産)	56.0%	56.0%	57.4%	総純資産に対する自己資本を示す指標。この比率が大きいほど大学の健全性が高い。
3	外部資金比率	(受託研究収益+受託事業収益+寄附金収益)/経常収益	4.5%	4.8%	5.0%	外部資金収益の経常収益に占める割合を示す指標。この比率が大きいほど外部資金による収益獲得割合が高い。
4	業務費対研究経費比率	研究経費/業務費	7.3%	7.8%	5.8%	業務費に対する研究経費を示す指標。この比率が大きいほど研究活動に使用される経費割合が高い。
5	業務費対教育経費比率	教育経費/業務費	4.0%	4.1%	5.0%	業務費に対する教育経費を示す指標。この比率が大きいほど教育活動に使用される経費割合が高い。
6	学生当教育経費	教育経費/学生実員5/1現在の員数	196千円	207千円	224千円	学生一人当たりの教育規模を示す指標。この数値が高いほど学生一人当たりの教育に要する経費が大きい。
7	教員当研究経費	研究経費/教員実員5/1現在の員数	2,863千円	3,190千円	2,283千円	教員一人当たりの研究規模を示す指標。この数値が高いほど研究活動で使用される経費が大きい。
8	経常利益比率	経常利益/経常収益	1.5%	1.6%	2.3%	経常収益に対する大学の事業活動によって得た利益の割合を示す指標。この比率が大きいほど事業活動の合理性が高い。
<b>【 低い方がよいとされている指標 】</b>						
9	人件費比率	人件費/業務費	54.5%	53.4%	52.8%	人件費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。
10	一般管理費比率	一般管理費/業務費	3.1%	2.9%	2.8%	一般管理費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。
11	学生当業務コスト	業務コスト/学生実員	2,302千円	2,261千円	1,839千円	学生一人当たりに係る業務コストを示す指標。この数値が高いほど学生一人当たりにかかる業務コストが大きい。
12	診療経費比率	診療経費/附属病院収益	61.9%	63.1%	65.0%	病院収益に対する診療経費の割合を示す指標。この比率が低いほど病院の収益性が高い。
13	附属病院収入対長期借入金返済比率	(長期借入金返済+財務・経営センター納付金)/附属病院収入	5.5%	6.5%	8.3%	病院収入に対する借入金の返済割合を示す指標。この比率が低いほど病院の健全性が高い。

※「同規模大学」とは文部科学省による財務分析上の分類で、医科系学部とその他の学部で構成された次の25大学を指す。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

※23年度において赤字で標記しているものは、前年度と比較して改善が見られた項目





本件に関する問い合わせ先

国立大学法人 長崎大学  
財務部 財務企画課 財務戦略室 決算班

TEL 095-819-2054  
FAX 095-819-2056  
[yoketu@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:yoketu@ml.nagasaki-u.ac.jp)